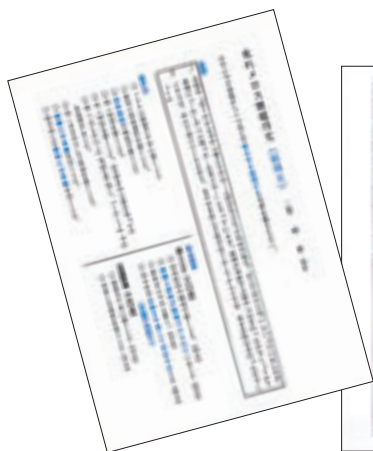


●茨城大学教育学部附属中学校

学習教材から保護者への連絡プリントまで幅広く活用

「大事な情報」が一目瞭然。 学習効果も高い

前回に引き続き、学習教材から家庭配布用プリントまで、幅広く活用できる「2色デジタル印刷機」の研究実践レポートをお伝えします。今回は、昨年10月から研究に取り組んだ茨城大学教育学部附属中学校を訪問し、その取り組みについて伺いました。



強調すべきところを青に。
課題作文もこれなら書きやすい



接続詞や指示語を赤色に。
文章全体の構成がわかってくる

日々大量のプリントを作成

明治10年開校と、百年以上の歴史を有する茨城大学教育学部附属中学校（山根爽一校長）。現在、約470人の生徒が学んでいます。教育研究の充実はもとより、毎年6月には同校を会場に、公開授業や分科会からなる公開研究会を開催するなど、地域の研究課題を踏まえ、公立学校・関係教育機関との連携強化等に重点的に取り組

んでいます。

「本校では公開研究会をはじめ、毎日の学習にも先生方がそれぞれ工夫して学習プリントをつくっています。中には、配布するプリントをルーズリーフ形式にまとめ、単元ごとに独自のノートをつくる先生もいます。さらに学校日より、学年だより、学級だよりなども発行しており、日々大量のプリントが印刷されています。その中で、求められていたのは、効果的なプリントをいかにつくるかということでした」（栗原裕一先生）

大切な情報を強調できる

同校が2色デジタル印刷機を使用した研究に取り組むことになったのは昨年10月。

データ原稿（パソコン）でも紙原稿でも従来のモノクロ1色のデジタル印刷機と同様の簡単な操作で、スピーディーに2色プリントが印刷できることから、すぐに多くの先生が活用を始めたといえます。特に先生方に喜ばれたのは、大切な情報を簡単に強調することができる点にあったと栗原先生はいます。

「これまで、パソコンで原稿を作成する場合、文書の語句を強調

するためには、フォントを変えたり、アンダーラインを引いたりしていましたが、2色プリントにより、大事なポイントは色を変えることで、一見して、重要点が伝わるようになりました。授業の中でも、2色で作成したプリントを使うことで、私たちの意図が生徒に的確に伝わるようになったと実感しています」

また、手書きの原稿でも2色の特性をいかしたプリントが制作されています。

中でも評判が良かったのは書写プリント。手書きで原稿をつくることで、パソコン上では難しい行書などの字形のプリントも、簡単に制作することができました。

生徒・教員・保護者すべてが高く評価

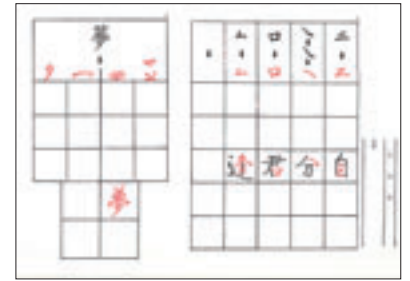
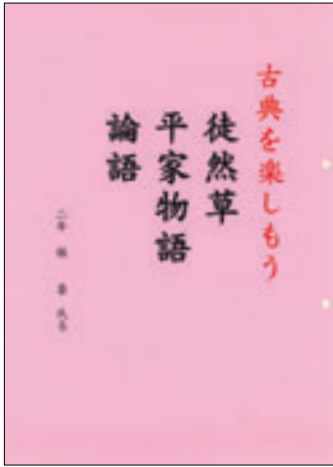
今年の3月、同校では生徒や保護者へ2色デジタル印刷機による



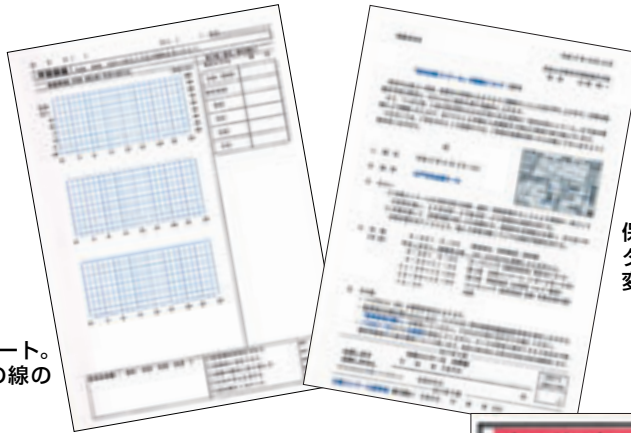
2色デジタル印刷機を操作する栗原先生。
壁には使い方を伝えるマニュアルが貼られている

国語科のプリントの一部。
下にポイントがあるので
分かりやすい

学習プリントはパンチで
穴を開けて一元化。表紙
も2色プリント。



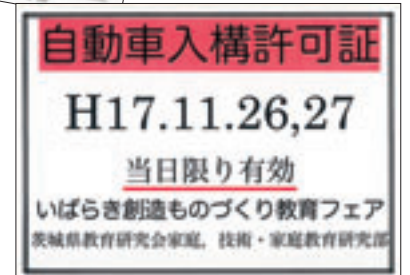
書写ワークシート。
楷書と行書の違い
を色で表現



理科ワークシート。
グラフや枠の線の
色を変える

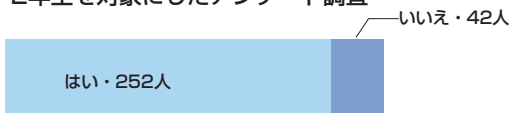
保護者への配布プリント。
タイトルや場所などの色を
変えて強調

自動車入構許可証も
2色で印刷



◆2006年3月、1・2年生を対象にしたアンケート調査
(12学級で294通回収)

2色刷りのプリントは
強調点がわかりやすい



2色刷りのプリントの方が
1色刷りよりよい



◆2006年3月、1・2年生の保護者を対象にしたアンケート調査
(316家庭に配布し、167通回収)

1色と比べて目立つ



情報を強調できた



2色刷りの方がよい



プリントに関するアンケート調査を実施しました。すると、多くの生徒が「強調点が分かりやすい」「1色刷りよりよい」と考えていることが分かりました。また、ほとんどの保護者も2色プリントの効果を感じたようです。
「2色プリントには他にはない効果があります。プリントによってはフルカラーのものもありますが、すべてをカラーにすると、かえって本当に大事な情報は何かと



校舎外観

ということが強調できません。その点、大事な情報を絞り込むことができる2色プリントは、教員の思いや伝えたいことをストレートに表現することができます。教員も、本当に大切なことは何かということを改めて整理しながらプリントづくりをしています」(栗原裕一先生)
情報過多の現代社会で問われているのは、いかに重要な情報を効果的に伝えるかということ。「2色デジタル印刷機」が教育現場において、生徒、教員、保護者すべてに高く評価されているのも、ここに大きな理由がありそうです。